

第3回「(仮称) 札幌市 ICT 活用戦略」策定検討有識者会議 議事録

●開会

(委員)

時間になりましたので、第3回「(仮称) 札幌市 ICT 活用戦略」策定検討有識者会議を開催させていただきます。よろしくお願いします。

本日の会議では、骨子の案が出てきていますので、それについて意見の交換をしていきたいと思います。

まず最初に、事務局から報告事項があると聞いていますので、お願いします。

(事務局)

(委員及びオブザーバーの紹介)

●事例紹介

(各事例の紹介)

●資料説明

(委員)

事務局から資料について説明いただきまして、その後にご議論いただきたいと思います。

(事務局)

それでは、資料に基づき、「(仮称) 札幌市 ICT 活用戦略骨子 (案)」の概要について、ご説明させていただきます。

こちらは別途配布しております骨子案本書から主な項目を抜粋して記載しているものです。

資料の1枚目をご覧ください。1枚目では、戦略策定の背景を整理いたしました。

左上の「戦略策定の趣旨」をご覧ください。

「(1) 策定の目的」として、ICTの急速な発展に対応し、積極的な利活用を進めることで、札幌の抱える課題を解決するための戦略であることを記載しております。

また、「(2) 位置付け」におきましては、地域課題解決のツールとしてICTを活用していくことを明確にし、今後の取組の方向性を市民、企業に示すものとして、この戦略を位置付けております。

続いて、左下の「戦略策定の背景」をご覧ください。

こちらでは、第1回目の有識者会議でもご説明させていただいたとおり、ICT環境の変化や国の動き、札幌市が加盟しているユネスコ創造都市ネットワーク「メディアアーツ都市」について記載させていただいております。

右側の「ICT活用環境の変化」では、平成9年度に策定した、前回の総合的な情報化計画

である「札幌市情報化構想」から現在において、札幌市の状況や ICT 環境にどのような変化が生じているかについて記載しております。

下の表にございますとおり、インターネット普及率は平成 8 年の 1.5%から平成 27 年には 68.4%と大きく伸びており、また、その利用環境にも、ブロードバンドによる常時接続やスマートフォン等デバイスの多様化といった変化が生じております。

また、主なコミュニケーションツールとしても、ソーシャル・ネットワーキング・サービスが利用されるようになっております。

続いて 2 枚目をご覧ください。

こちらでは、これまでの有識者会議で頂いた意見を踏まえて、札幌が目指す姿をまとめております。

上の四角にあるとおり、戦略の目標を「ICT 活用先進都市 SAPPORO～トップランナーを目指して～」とし、その下に二つの項目を挙げております。

一つは左側にありますとおり、「札幌を ICT による課題解決のショーケース」とするもの。また、もう一つは右側にあるとおり、「ICT でつくる誰もが暮らしやすいまち」であります。

まず左側の課題解決のショーケースについてです。

二つ目から三つ目の段落に記載しているとおり、札幌は、進取、挑戦、調和を大事にしながら、地域課題の解決のために、まち全体で ICT を活用した取組を推進し、その過程で生み出されるイノベーションが札幌の活性化と課題解決につながり、ICT 活用の先進都市として、さまざまな取組のショーケースとなることを目指すものであります。

次に、右側の誰もが暮らしやすいまちについてです。

本戦略においては、札幌市民は、ICT に関する知識の有無にかかわらず、ICT の存在を意識せずに、その利便性を享受し、快適な生活を送ることができるようになることを目指すものであります。

続いて 3 枚目をご覧ください。

ここでは、さまざまな ICT 技術を活用することで、いろいろな場面でまちの活性化や市民の暮らしの向上につながっていくといったイメージを掲載しております。

例えば、左上の「センサーネットワーク」やその下の「ビッグデータ」、「オープンデータ」などを活用することで、真ん中上から二つ目の「産業」にある「観光客の行動やニーズが把握でき、観光産業、商業が活性化」することなどが期待できると考えております。

それ以外にも、「人工知能」、「モバイルファースト」、「クラウド」、「GIS (地理空間情報)」、「個人認証」などのさまざまな技術を、有効に、また適切に活用していきたいと考えております。

次に 4 枚目をご覧ください。

ここでは、左側に「生活」、「産業・経済」、「教育・活動」、「行政」の各分野における札幌のまちの将来イメージを記載しております。

このイメージの実現に向けて、その右側にあるとおり、六つの項目に分けて施策を構築

していきたいと考えております。

最後に5ページ目をご覧ください。

こちらでは、重要性や緊急性が高く、戦略を象徴する事業として、「リーディング・プロジェクト」を挙げております。

現在、検討しているものが、前回の有識者会議でもご報告させていただきましたとおり、ビッグデータ・オープンデータの活用に関するプロジェクトでございます。

このプロジェクトでは、官民が保有するデータを収集、管理するためのプラットフォームを構築するとともに、その活用として、観光、雪・交通などの分野で新たなサービスの創出等につなげていきたいと考えています。

なお、リーディング・プロジェクトについては、委員の皆様からのご意見や庁内での議論も踏まえて、今後、さらに追加していく予定です。

また、その下にあります「4つの視点」では、戦略の推進において具体的な取組を立案し、実行するにあたっての視点として、「新たな取組への挑戦」、「技術トレンドの把握・活用」、「市内に集積する技術・ノウハウの活用」、「札幌のもつ各種資産の活用」の四つの項目を挙げております。

最後に、「戦略の推進体制」としては、この戦略の推進及び進捗管理のために、産学官連携による推進体制を設置することを記載しております。

本日は、特に2ページ目にある戦略の「目指す姿」について、また、4ページ目の左側にある「札幌のまちの将来イメージ」について、ご意見を頂ければと存じますので、よろしく願いいたします。

資料の説明は以上です。

●委員による意見交換

(委員)

はい、ありがとうございます。

ICTをどう活用するか、札幌市の経済発展、あるいは生活環境を良くするというところで提言をしましょうということです。そのたたき台の原案が資料ですね。

何かご意見、追加してほしいなどがあればお願いします。

(委員)

質問ですが、この資料で見ると4ページ目に「戦略1-1」などがあるのは、概要版だけを見ると戦略1-1は何かが分からないです。ここにあった方が良かったと思います。これが左側に対応しているのであれば、矢印は四つあった方が分かりやすいと思います。

骨子(案)の32ページにテレワークが入っています。読んでみると「実施事業・仕事と暮らしのライフプランの支援事業(うちテレワーク)」とあります。これがよく分からなかったのが質問です。

全体を見ていて思ったのは、今のテレワークはお話したように、地方創生のテレワークは、企業だけを呼んで企業誘致するというのが入っていますが、企業が突然地方に支店を出すのはハードルが高い時代になってきています。まず人が帰って、そして最初は在宅勤務だったのが、人が増えてきたらサテライトオフィスを作ろうかな、そんなにて採用ができるなら支社にしておこうかなというような流れがあります。企業にとっても地域にとっても。私は、札幌は住みたい人が多いし、帰りたい人も多い分、企業を呼んでくるのが雇用を支えるのではなく、東京の企業に勤めたままというのを入れていただきたいと思いました。

(事務局)

今、ご質問いただいた骨子(案)の本文の所ですが、32ページの「実施事業・仕事と暮らしのライフプランの支援事業(うちテレワーク)」というのは、先に説明させていただきましたアクションプラン2015に書かれています。今年既に取り組みを行っておりまして、実際に「テレワーク導入支援」として、経済局で補助の仕組みを始めようということでございます。

(委員)

説明いただき、ありがとうございます。

(委員)

ICT戦略は何のためにするのかというと、ICTを活性化するためではなくて、札幌市がこうなりたいということがあって、そこに近づくためにICTの活用が重要であるというロジックだと認識しています。すると、各論に入っているいろいろなキーワードを入れていくと、キーワードごとに議論が小論していくので、ぼけてきてしまいます。

まちづくり戦略ビジョンがあって、そのゴールが可視化されていないと、議論がこのキーワードを入れてくれないと困るというような話になる。そこを明確にしたほうが良いと思います。市民の生活、札幌市の産業という視点で検討していかないと、一見して「IT産業が儲かっていいね」という話になって、札幌市全体から賛同を得られるかといえば、弱い気がしました。原案を書いている方は分かっていますが、これだけ見るとそれが分かりづらくて、ビッグワードが出てくる。それをやることを目的化しているように見えるので、最初に堂々と言ったほうが良いと思います。「ここに書いてあります」ではなくて、札幌市は10年後、32年までにはこういう街、行動を目指します。そのためにICTを活用しないとできませんという大上段からいって、そのためにはIoT、テレワーク、AIということになると思います。

原点に振り返って、この議論に参加していない人が見たときに行動が分かるようになった方が良くと思います。それは大したことではなくて、冒頭に何かを書くということだと

思います。それを期待したいです。

ともすれば、3回4回会議をしている中で揺らいでくるのです。どこかのタイミングで振り返った方が良くと思います。

(委員)

人材とか、教育の仕組みは、重要なポイントになってくると思います。

最近では、求人をしても集まらないです。IT 技術者が慢性的に不足していて、これは昔からではないのですが、一般経理事務なども、昔に比べて応募が弱い気がします。

応募はあるのですが、若い方というよりも、キャリアがある方が中心で、若い方の応募が極端に少ないのです。なぜ若い方が少ないのかと思うと、コールセンターがやたらと多くて、そこには、自由な感じのファッションで、若い人がたくさんいます。そこに雇用が吸収されているような気がしています。その方々が 10 年後 20 年後、どこで働くのかと思うとぞっとするのです。コールセンターは一時的な雇用なので、アルバイト的な仕事で、そこが札幌の雇用を握ってしまっていて、キャリアの設計があるような気がしません。若い方はいないし、上の方がいるというようにいびつな構造になってしまうのではないかと。

札幌は一つの職業ではなくて複数の職業を得るのが普通だよねというのが必要になってくるのかなと思います。

この議論はオープンガバナンスと近いと思うのですが、そういうキーワードが入っていないですね。どこが議論するのかというのは行政にとって核心的な部分だけに、札幌市の本気度合いが分かるものになるのではないかと。まちづくりは切り離しが可能だと思いますが、オープンガバナンスはもう少し中に入っていく議論なのです。

具体的にどんな課題があって、ICT で解決しようとしているのか、課題を出したほうが良いと思います。先ほど話していた、所得が低い、出生率が低いのもそうですし、どういう課題があって、ICT 的なアプローチで解決できるかという、ICT つまり包丁だけの話だけではなくて、どういう料理を作るのかという青写真も一緒に議論していくと建設的な気がします。

(委員)

産業的に言うと、最近感じているのは、北海道の IT 業界はどういう会社があって、どういう状況なのか、ということが、札幌市内もそうですし、状況がうまく伝わっていないと思っています。コマーシャルが少ない気がします。特に学生は、北海道にどんな会社があるのか、うまくつかめていない状況があります。

こういう産業があるのを首都圏にアピールすることが重要だと思っています。首都圏にはどうやってアピールすると良いのか。働きやすい、テレワークも含めて、うまく情報をアピールすることを入れていってはどうかと思います。

(委員)

骨子(案)の30ページの所で、全体的に考えて、市民生活の問題だとか、IT企業に関することとか、それは十分にいろいろと記載されていると思いますが、既存企業がICTを活用することでどういうメリットがあるのか、というのが弱い感じがしています。

30ページの「企業の付加価値向上の支援」という所で、ICTを活用して、新たなビジネスの創出や事業の効率化みたいな感じですが、事業の効率化というよりも、具体的な付加価値を既存企業がどう作っていくのかが今一番課題だと思っています。そういう部分に、ビッグデータやAIを使うことによって、既存企業についても付加価値を上げるというような夢のある話を入れたいと思います。

(委員)

「情報結縁都市」を20年前にうたい出した時に、キャッチフレーズというか、札幌市は情報、ネットワーク化でつながることで、人と人がつながる、あるいは、それで新しい都市のイメージができるというのを込めたのです。今回はICT活用がメッセージになっていて、何を指すのというのが、ビジュアライズされていない。

IoTを推進した、では変ですよ。20年前のことを思い出すと、インターネットを引くことが目的ではなく、インターネットを引くことで、グローバルな話も入っていたので、札幌の人が日本全体、世界に向けてメッセージを出して、縁が広がるイメージを持ったと思います。その結果としては、創造都市ネットワークがあると行政的には解釈するのだと思います。

何かメッセージがあったほうが良いというのは共感します。それが可視化されていないので、何をやるんでしたっけという根幹的な素朴な疑問が湧いてきてしまいますね。

(委員)

概要の資料の中で分かりづらいと思った所を伝えておきます。

2ページ目「ICT活用先進都市 SAPPORO～トプランナーを目指して～」ということで、二つに分かれています。これは、右側の項目は「できる」とか「目指す」で終わっていて、「できる街」「目指す街」ということであれば、ここには目標が出ています。左側が一番上の「絶えず新たな技術が生まれ、普及し、定着していくICT」というのがよく分からなかったです。ショーケースであれば「ICTのショーケースになる」だと思いますし、その下の内容を見ても、バランスが悪いのではないかなという気がしました。

私が思うのは、ICT活用先進都市として札幌市がトプランナーになれるのは、この二つがあるからだと思っているので、足し算がありますが、イコールのほうが分かりやすいかなと思いました。

3ページのほうも、この図だけみると、材料があって、料理の出来上がりがあるのです。材料は左右にあるいろいろな技術で、真ん中にあるのが出来上がった美味しいお料理とか、

お皿に乗ったものなのですが、レシピが見えないのです。そこに納得感がないのかなと思いました。私はレシピが見えるほうが良いと思いました。

(委員)

いろいろお話を伺っていて、今回は ICT 活用戦略ですね。目標像があって、今までの生活が ICT によって向上する、質が上がるということと、革新が現れて全く変わるという二つがあると思っています。この目標像がない中で、問題点も不明瞭なまま、ICT を活用すると色々な良いことがあるよというふうにはしか見えないのです。

3 ページは個別のものもあるのですが、絡まっていくものがあるのだと思いますが、今より良くなるんだよねと、ふわっとした構想しか分からないように思います。

今ある課題や問題点は何なの、という議論をしていただいた後に、お集まりの先生方や専門家の皆さんの知見から、こんな解決方法があるという段階を踏んで、問題を解決する、革新する札幌の街の姿につながる。

段階が明示されていないと、活用するのが分からない、戦略を立てていると思えない。骨子(案)については、最後に事業がありますが、既にある事業を並べているだけなのか、新規のものはあるのか、既存だけど向上させるものなのか、分類がよくわかりません。それを明示しないと意味がないと思います。

(事務局)

事業については、記載されているのはアクションプラン 2015 にあるものを載せています。新しい事業については、各事業部局で検討中のものがございまして、実際に戦略を作る際には、盛り込んでいきたいと考えています。予算要求もしていない段階なので、今回はご提示できませんでした。

(委員)

概要版の 2 ページのショーケースというのは、この会議の最初に発言があった夢という部分かなと思うのですが、夢にしてはあまりにも下かなと。前に、直近でできることでなくても良いのではないかというお話があって、そのとおりだなと私は思ったのです。すぐにできなくても、私たちはこういうものを目指しているのだという、もう少しレベルの高い夢があっても良いのではないかという気がします。2~3 年で実現できそうな部分のショーケースだと広がり不足で、もう少し広がりがあっても良いかなと。ショーケースの上にキャッチフレーズのようなものがあっても良いと思います。夢のキャッチコピーのようなものが欲しい気がします。

(委員)

ICT を使うにあたって、生活に役立つのは重要ですが、他に先駆けて正しい選択をすると

いう、正しいソリューションを示していくのが産業のためにも良いし、それこそショーケースだと思います。評価軸がないと、ただ派手だからやるのであればお祭り騒ぎで終わるので、そこをクールに、ちゃんとジャッジして、良いもの、将来性のあるもの、でも他はまだ気づいていないものをするというのをプロジェクトに選んでいくのが良いと思います。

(委員)

ショーケースは2つあるのです。ウィンドウショッピングをするように日々変わるショーケースというのと、大看板というのがあります。では、札幌市は大きく取り上げるビッグプロジェクトがあるのかなど。それがないと、その都度、霞が関から出てくる小型予算でやりますという羅列に陥って、後追いになります。

立ち位置を決めて、たとえば、北海道は冬の北方圏都市だというキーワードで、ビッグプロジェクトを打ち上げて、それがショーケースの中の大きな看板としてあって、「さすがですね」といわれるものがあつた上で、夢だけでは生活できないので、日々、いろいろなアクティビティが渦巻いている。

札幌市のIT業界、大学もそうですが、それがなくて、日本経済新聞のキーワードを私が一番先に言ったみたいなモードがあるように思います。キーワード争いが始まるのです。それは情けない話です。

行政機関は逆に、ITのキーワードに頼るのではなくて、「このイメージを作るために、IT業界はどう動く？」というスタンスも、札幌市から大上段に言ってもらおうと良いという気がします。

「札幌市をこの先10年間運営していく上で、これが実現されないと我々は困るんだ。財政破たんするんだ。それを解決する手段をICTに求める。その時にIT業界は何を出すのか？」と、何もなしで聞かれたら、皆さん手持ちの駒を出してくるのです。今は駒がぼつと出てきている状態で、それは悪いことではなくて、こんなに駒があるんですよ、それが北海道、札幌市の強さですというのも事実なのです。政令指定都市札幌なるもの、大上段でビジョンを投げかけてくれても良いし、メッセージがあっても良いと思います。

(委員)

ここで、この課題を解決したいということと言っても良いのですか。

(委員)

はい、もちろんです。

(委員)

除雪の問題です。ICTを活用してということになると、ロボット掃除機のように、朝起きたらきれいになっている夢のような都市になれば最高です。

課題があって無理そうだからやめようかということではそこで止まってしまう。「札幌市がやる気です、ICT を使って何かやる気です」ということであれば、真っ先に除雪を置くのも戦略としてありなのかなと思います。

(委員)

ICT の道具化はここ 10 年以内に相当進みました。20 年前であれば道具ではなくて、ICT そのものが夢のツールだった。それが今は完全に道具になって、トンカチとかペンチのレベルまで来たということです。

それで何を作れるか、作るものをイメージできなくなっているのが今の状況ですね。先ほども良い話が出ていて、札幌にアドバンテージがあって、雪さえ降らなければこんなに良い所はないと私は世界中見て実感しています。暑い所が良いわけではないですが。

もっと大きな話があって、政令指定都市の中で平均賃金が低いというのは、汚名だと思っています。言っていることとやっていることが食い違っていて、北海道は人気 No1、住みたい街 No1 と言われている一方で、賃金が一番低いという事実がある。私は賃金が一番低いと思ってはいなかった。除雪が局所的だと言われたら、もっとマクロにいて、ICT を活用して、賃金を政令指定都市の平均以上に上げるということも、それで生活しやすい、楽しい、豊かな街にするのを ICT でやるのだ、「どうだ、参ったか」というくらいのことを言っても良いと思います。

そのための重要なキーワードは、除雪だと思います。

最近の IoT 論にはじくじたるものがあります。というのは、情報屋が言い出したので、集めることしかなくて、作用がないのです。除雪の話をもんなするわけです。センサーネットワークを作れば除雪ができると言いますが、できるわけがないのです。作用のない IoT、AI がいかにむなしいか。分かっただけだとアウトなのです。かえっていら立つのです。除雪されていないことが分かった人の気持ち、他はされているのに、自分の所はされていないことが分かることがいかにつらいか。これって重要なのです。情報系の話だけだと作用が弱い。「IoT」と言わないで「インダストリー4.0」と言った彼らはクレバーなのです。作用のほうに重きを置いているのです。その辺の所を我々がそしゃくしてビジョンを示せば、かなり賛同を得られると思います。そうじゃないと、また IT 屋が自分たちの所に金を引っ張ろうとして書いているというふうに見られると思います。IT 屋ではない人が見たらどう思うか、IT のキーワードにたくさん投資をしてくださいとメッセージを送ったと見られるだろうと。そのためにも、大きなビジョンと、これがどのように還元されるか、効果が出るかを示すことが必要だと思います。

(委員)

ICT はツールであって、目標を定めるほうが先で、ツールを使うのは、ICT でなくてもできるものもある。そのまますれば良いし、使わなくてはできないものは使えば良い。明確

な目標を定めてしまった方が良く、そこにどう使うのかは後で考えれば良い。後から考えられない場合もあるかもしれませんが、目標の方が重要だと思います。

(委員)

骨子(案)が出てきて、可視化されると、そういう論点が弱いとか、意見が出てきますね。可視化する方法がいろいろあるということで、委員会としてもそういう所で議論することになりますね。

(委員)

行政サービスとしての省人化ということを目標としているのか、市民に対して便利にしようとしているのか。行政サービスがもう少し円滑に、かつ省エネ、省人化できるようになってくれば、生活しやすくなるというのは付いてくるとは思います。直接的に市民を便利にすることと、行政サービスをすることは少し違う気がします。直接、市民を便利にするとなれば、行政よりも企業に対してすることがあると思いますし。そういう点が不明確な気がしています。

(委員)

行政の内部構造を我々が意見するのも妙な気がします。基本的には市民ファーストなのだと思います。市民が暮らしやすい、税金が下がるとかを考えた時には行政システムの簡素化とか、制度の改定、システムの変更が要ると思うのですが、果たしてそれをここで議論するのだろうか?と思います。

(委員)

先ほど話していた除雪の話は、行政サービスになるのかなど。個人がロボット掃除機を買って、自分の周りだけを手入れしますというのものもあるかもしれないですが。

(委員)

効果が市民に直接見えることということで、除雪を責任を持ってやっている札幌市とすれば行政の内部問題になると思いますが、大上段は、市民は何を期待するかということだと思います。それは、明示的に札幌市がこういう除雪をするというのはありだと思いますが、根底は市民ファーストということだと思います。

そろそろ時間になりました。骨子(案)が出てきて、みなさんの議論も濃厚なものが出てきたと思います。

以上で、終了したいと思います。

次の会議について、事務局からお願いします。

(事務局)

次回は、10月中旬を予定しております。日程については後日、ご連絡・調整させていただきます。本日のご意見を反映させまして、次回の議題としましては、素案をお出ししたいと思っております。よろしくお願いいたします。

以上